

災害に向き合って その4

世界の大地震（アジア-2, アフリカ）

峰谷 紀之

イラン・ボインザラ地震 1962年9月1日、イラン西部のボインザラでマグニチュード7.7の大地震が発生しました。この地震では1万2,000人余りが命を落としました。右の切手は地震の一年後にイランが発行した寄付金付き切手です。瓦礫となった街を背景に、幼い二人の子供を背負い、抱いた母親が描かれています。一人の子供は母親の背中で疲れて寝入っている様子で、母親の表情にも疲労の色が浮かび、過酷な避難生活の様子が伝わってきます。こうした報道写真のような図案からは、災害と向き合って生きて行く人々の様々な姿が伝わってくるようです。このような重いテーマの切手は日本ではまず見られないですね。



イラン 1962.9.1

レバノン・チム地震 1956年3月16日、レバノン中西部をマグニチュード5.3と5.5の地震が相次いで襲いました。この地震により住宅6千戸が倒壊し、1万7千戸が被災し、住民136～154名が命を落としました。右の切手は地震のあった年にレバノンが発行した郵便税切手で、被災者への寄付金を集めるために発行された切手です。住んでいた家も倒壊したのか、不安そうな表情で瓦礫を見つめる母親と二人の子供が描かれています。切手が小さく図案がやや見にくいため、ここには拡大した図を掲載しています。この切手発行の後も1962年までの5年にわたって毎年、復興支援の郵便税切手が発行



レバノン 1956
(拡大率 130%)



レバノン 1957
(拡大率 130%)

されました。左の切手(拡大図)はこのうちの一つで、地震の翌年1957年に発行されました。家の再建の様子が描かれており、刷色や図案の細部は一部変わりますが、ほぼ同様の図案で毎年発行されました。

ここに紹介したイランやレバノンの一連の切手は地震の被災者や復興の様子を直截的に表現しており、大変強い印象を与える切手になっています。

パキスタン大地震 2005年10月8日朝、パキスタン北東部のカシミール地方でマグニチュード7.6の地震が発生し、パキスタンとインド両国で死者7万人を超える大きな被害を受けました。切手左は地震発生1周年に発行されたもので、被災住宅と思われる建物を描いています。また右は地震3周年の切手で、仮設住宅での生活では被災者にも笑顔が戻ってきているようです。いずれの切手にも「Build Back Better（復興で前より良く）」の標語が見えます。



パキスタン 2006.10.8



パキスタン 2008.10.8

アルジェリア・1980年アスナム地震および1954年オルレアンズビル地震 アルジェリア北部の地中海に面した現在シュレフと呼ばれる町は、過去数十年に2度の大地震に見舞われています。1980年10月10日にはマグニチュード7.1の地震があり、強い揺れと津波により死者3,500人、負傷者約9,000人の被害がありました。シュレフ当時の名称はEl Asnamであったため(1980年にシュレフに改称)、1980年アスナム地震とも呼ばれます。右の切手は地震の翌月に発行されたアルジェリアの切手で、町は瓦礫の山と化し、元の姿をうかがい知ることもできません。さらにシュレフの町がもうひとつ古い名前オルレアンズビル(1962年まで)と呼ばれていた1954年9月9日にもマグニチュード6.7の地震があり、これをオルレアンズビル地震と呼びます。この時も強い揺れと津波が襲い、死者1,200人、負傷者は5,000人を数えました。下の切手は、地震から約3か月後に発行された被災者支援の寄付金付き切手で、倒壊した家と悲しみにくれる被災者、けが人や子供の救助活動など地震直後の被災地の状況を生々しく表しています。



アルジェリア 1980.11.13



アルジェリア 1954.12.5

